

序

熊本野生生物研究会 会長

西岡 鐵夫

このたび、会誌5号が発刊となり皆さんとともに、慶びを分かち合いたいと思います。

本会々則にある「研究活動と教育に寄与する」という目的に沿って構成される会誌は、貴重な研究成果の発表の場であるばかりか、公表の場を得られにくい研究成果・論考・意見発表の場としても貴重なものではないかと考えています。

調査途中で、次号掲載に回されたものも多く、予定されたすべての会員のものを掲載することは不可能でした。しかし、熊本県の小さな「会」かもしれませんが、本会の会誌は個々の会員が生物多様性保全の理念を共通認識として、地道に調査を行い纏め上げられたものです。研究成果のみならず、その調査の過程でも得られる様々な見識も注目されねばなりません。それらは、教育研究のみならず、文化的にも産業的にも地域振興に寄与するものであり、私たちの身近な自然環境の再認識、再発見にも連なるものです。

「知ることは愛のはじめなり」と言います。それは人生を豊かにすることでもあります。博物学が希薄となり、動植物に興味関心を持つ子どもたちが激減している一方で、自然環境の悪化が激増しています。それだからこそ、地道な調査研究が求められます。生物多様性の保全を目指すという理念の下に、多くの人に、とりわけ未来を担う若人に何かを伝えようとするとき、その成果を載せた会誌の役割には重要なものがあります。多くの方々に利用していただき、また忌憚のないご意見を頂きたいと思います。

最後に、発刊にあたってご協力いただいた多くの方々に厚くお礼申し上げ、今後の本会の発展・充実を願いつつ挨拶の言葉といたします。

平成21（2009）年3月吉日